

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2024年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		環境園芸学科／子ども教育学科		
科目名称	生涯学習概論					授業形態	講義		
科目コード	750054	単位数	2単位	配当学年	2	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	植村 秀人							ICT活 用	○
授業概要	<p>本講義は、生涯学習に関する科目である。内容としては、生涯学習の歴史的意義の理解、行政の体制、学習者の理解や支援、生涯学習施設の把握及び生涯学習施設と学校の連携について取り扱う。本授業では、生涯学習の意義や行政施策の理解をするとともに、学習者の学習課題やその支援の理解、生涯学習施設(公民館や図書館・博物館)の歴史的展開や役割の理解、生涯学習と学校教育の関わりや生涯学習施設と学校教育の連携についての理解が得られることを目標とする。環境園芸学科の学芸員資格取得希望者と子ども教育学科の小学校教員・幼稚園教員・保育士資格取得希望者が合同で受講する科目であり、小学校・保育園・幼稚園と社会教育との連携についても踏まえた内容としている。</p>								
関連する科目	<p>子ども教育学科生 4年次開講となるので教育学概論など教育学系の科目を受講しておくこと。</p> <p>環境園芸学科生 学芸員資格に取得上必修科目となっている。学芸員資格の取得を目指す学生の受講を期待したい。なお、学芸員資格取得上本科目は基礎となる科目であり、できるだけ早期(2年次)に受講することを希望する。 なお、本科目は教員免許取得(中高栄免課程)における履修科目となっていないが、学校教育との関連性もある内容なので、教員希望者には卒業までに諸条件が許すなら受講されることを推奨したい。</p>								
授業の進め方 と方法	<p>本授業は、講義形式で実施する。一部の回では、受講者をグループ分けし、グループディスカッションや課題発表を予定している。これにより受講生が主体的に学ぶようにする。</p>								
授業計画 【第1回】	<p>生涯学習とは何か～社会教育・生涯学習と学校(テキスト「はじめに」「序章」)～ 授業の概要や社会教育・生涯学習の基本的概念の理解と学校教育との関わりについて知る。</p>								
授業計画 【第2回】	<p>社会教育・生涯学習の基礎Ⅰ～社会教育・生涯学習の思想と歴史(テキスト:第1章)～ 法制度と社会教育・生涯学習の関係について知る。</p>								
授業計画 【第3回】	<p>社会教育・生涯学習の基礎Ⅱ～社会教育・生涯学習の法制と行政(テキスト:第2章)～ 法制度と社会教育・生涯学習の関係について知る。</p>								
授業計画 【第4回】	<p>社会教育・生涯学習の基礎Ⅲ～社会教育・生涯学習の施設と職員(テキスト:第3章)①一般的な施設、図書館・図書館司書について～ 社会教育・生涯学習を支える職員や実践の場である施設について知る。今回は、特に施設の種類の、図書館と図書館司書を重点的に扱う。</p>								
授業計画 【第5回】	<p>社会教育・生涯学習の基礎Ⅳ～社会教育・生涯学習の施設と職員(テキスト:第3章)②社会教育主事と公民館～ 社会教育・生涯学習を支える職員や実践の場である施設について知る。今回は、特に公民館と社会教育主事、そして施設の設置形態について重点的に扱う。</p>								
授業計画 【第6回】	<p>社会教育・生涯学習の基礎Ⅴ～社会教育・生涯学習の対象と方法(テキスト:第4章)～ 社会教育・生涯学習の対象や実践方法について知る。</p>								
授業計画 【第7回】	<p>社会教育・生涯学習の基礎Ⅵ～世界の生涯学習政策(テキスト:第5章)～ 海外の社会教育・生涯学習について知る。</p>								
授業計画 【第8回】	<p>学校と社会教育の連携Ⅰ～「開かれた学校」にみる社会教育(テキスト:第6章)～ 生涯学習における学校教育の役割を知る。</p>								
授業計画 【第9回】	<p>学校と社会教育の連携Ⅱ～地域文化の継承(テキスト:第7章)～ 学校教育と社会教育の連携による地域文化継承について事例から考える。</p>								
授業計画 【第10回】	<p>学校と社会教育の連携Ⅲ～地域防災教育の展開(テキスト:第8章)～ 学校教育と社会教育の連携による防災教育について事例から考える。</p>								

授業計画【第11回】	地域における社会教育Ⅰ～貧困・格差社会を生きる子どもの暮らしと社会教育（テキスト：第9章）～ 貧困や格差問題への社会教育の関わりについて知る。
授業計画【第12回】	地域における社会教育Ⅱ～若者支援と居場所づくり（テキスト：第10章）～ 若者支援における社会教育の役割を考える。
授業計画【第13回】	地域における社会教育Ⅲ～地域スポーツの推進と生涯学習（テキスト：第11章）～ 地域スポーツの意義などについて考える。
授業計画【第14回】	地域における社会教育Ⅳ～地域課題解決と生涯学習（配付資料）～ 地域課題解決にどのように生涯学習が貢献できるかを考える。
授業計画【第15回】	おわりに～多様性を包摂する社会教育を目指して（テキスト：第12章）～ 主に障害者を持つ人々と生涯学習の関係、およびまとめ
授業の到達目標	両学科共通の目標として以下の3点について一定程度得られることを目標とする。 ○生涯学習の意義や行政施策の理解 ○博物館・図書館・公民館など生涯学習施設の歴史的展開や役割の理解 ○生涯学習と学校教育の関わりや生涯学習施設と学校教育の連携についての理解 また、両学科については、学科の特徴から以下の点についてそれぞれ到達目標とする。 ○環境園芸学科生は、学芸員として必要な学習者の学習課題やその支援の理解している。 ○子ども教育学科生は、教師や保育士として生涯学習機関・施設との連携協力についての理解している。
学位授与の方針(DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	テキストを事前に読む（1時間） 事前設定の各種課題の作成を行う（30分）
授業時間外学習【復習】	テキストを読み直す（1時間） 事後設定の課題などを行う（1時間）
課題に対するフィードバック	レポートについては、返却する。この際に評価のポイントなどを簡潔に説明する。
評価方法・基準	小テスト 75点(5点×15回)※出席した回のみ試験を受けられる。 グループワーク 10点 授業への姿勢 5点 最終レポート 10点 小テストは、Web形式とする。一部小テストは再チャレンジ可能とし、該当試験は定期試験終了(8月8日18時)まで何回も可能とする。ただし、一回回答した場合には、一定時間回答できない。また、出席した回のみ試験は受験可能とする。 グループワークは、5点は第14回の学習に対して付与する。残り5点は14回以外の活動を各回5段階評価したものを点数化する。
テキスト	教科書名 社会教育・生涯学習（MINERVAはじめて学ぶ教職 7） ISBNコード 978-4623084470 著者名 吉田武男（監修）、手打明敏（編集）、上田孝典（編集） 出版社 ミネルヴァ書房（2019/1/16）
参考書	佐藤晴雄 生涯学習概論 田中克佳 教育史 加野芳正 新しい時代の教育社会学 木村元 日本の学校受容 片桐芳雄・木村元 教育から見る日本の社会と歴史
備考	最終レポート課題 「人にとって、『学校以外で学ぶことの意義』をあなたはどのように考えますか」